

# 各種の「契約」をどう見直すか 収益認識基準への 法務対応

## 第1章

法務面で重要な「ステップ」をひもとく  
契約実務からみた収益認識基準

## 第2章

各部門と連携して戦略的な検討を  
収益認識基準対応で契約を見直す際の留意点

高木 弘明(西村あさひ法律事務所 弁護士・ニューヨーク州弁護士)

収益認識会計基準に「契約」という法的概念が持ち込まれ、企業が収益を認識する時期・金額の判定に際して法務・契約実務の観点からの検討も必要となった。

そこで、本特集では、収益認識の5つのステップのうち、法務・契約実務の観点からみて重要な事項に絞って解説していただいた。あわせて、契約見直しの手順およびチェックリストも作成いただいたので、参考にさせていただきたい。